



No.44

UT University Forests News

科学の森ニュース

December 10, 2008

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

千葉演習林紅葉の猪ノ川溪谷特別ガイドを実施

千葉演習林・広報情報室

東京大学の教職員の方で、演習林に行っていないが一度訪れてみたい、という方が多数いらっしゃいます。そのご要望にお応えして、千葉演習林の秋の一般公開日に合わせた2008年11月29日（土）、教職員とその家族・友人を対象とした特別ガイドを実施しました。

参加者は28名で、東京大学の中の様々な部署に所属されている方に来ていただきました。美しい紅葉を愛でながら、演習林職員とボランティアによる演習林や森林の話に興味深く聞いておられました。途中、予想外の雨に見舞われましたが、くっきりとした虹が雨上がり後の紅葉の山に架かり、自然の懐の深さを実感されたことと思います。



猪ノ川溪谷沿いの道を歩く皆さん（左）・黒滝（右上）・雨上がりの虹（右下）

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

公開セミナー「入会権の公共性」

富士演習林

2008年10月18日、富士吉田市にて公開セミナー「入会(いりあい)*権の公共性」が、科学研究グループと地元入会団体の共催により開催され、地元の入会住民を中心に約100人が集まりました。セミナーでは富士演習林の齋藤暖生助教が、入会の受け皿となっている山梨県内の財産区を取り上げ、市町村行政の関与実態とその問題点について、地元自治を尊重する観点から講演しました。このほかに3講演が行われ、その後、農学生命科学研究科・井上真教授の司会により、入会の現場で奮闘する方々を交え活発な意見交換会が行われました。

*注：入会とは、森林、原野などを共同利用する形態の一種を言う



大勢の聴講者で埋まったセミナー会場

千葉演習林産のヒノキ材が 「千葉県森林組合連合会長賞」受賞

千葉演習林

千葉演習林では78年生のヒノキ・スギ人工林を立木販売し、この材が千葉県優良木材展示会に出品され、「千葉県森林組合連合会長賞」を受賞しました。人工林研究・教育の代表的なフィールドである千葉演習林には、幼齡林から150年生を超えるような高齡の人工林まで見られ、毎年計画的に伐採することで、バランスのとれた樹齡の構成になるよう努めています。先輩方が丹精こめて手入れしてきた材が受賞したことはとても嬉しいことです。

この伐採地は、関東ふれあいの道沿いにあるため徒歩であればいつでも見学出来ます。ぜひ木々の成長を見にお越し下さい。



受賞したのは後方に看板がつけてある材

里親企画 2008 を開催しました

秩父演習林

2008年10月26日、科学の森里親制度の趣旨に賛同された「里親」の方々を対象に「里親企画 2008」を開催しました。当日は、里親7名とその関係者8名の総勢15名が秩父演習林を訪れました。肌寒い一日となりましたが、里子の樹木との対面、昼食は紅葉の下で猪汁に舌鼓を打ち、自己紹介を通じて里親同士の親睦を深めました。その後、ワサビ沢展示室の見学とモノレールの試乗を体験しました。「次回は新緑の頃に訪れたい」という声が聞かれました。秋の秩父演習林を堪能されたことと思います。



色とりどりの紅葉に感嘆の声が...

里山フィールドサイエンス推進プログラム (東京大学秩父演習林黒石試験地長期占有利用) 募集のお知らせ

詳細は秩父演習林ホームページをご覧ください
るか、秩父演習林企画調整係 0494-22-0272
までお問い合わせください。

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chichibu/>

近年演習林では森林に関する教育研究が多様化し、業務範囲が広がってきています。公開講座などでは、職員だけでは対応が不足する場面が増えてきています。また一方で、余暇は自然とふれあいながら森の手入れをしたいという方も少なくありません。そのような流れの中、演習林の活動を支援して下さるボランティアの方々があります。今回は、秩父演習林と千葉演習林でのボランティア制度について紹介します。

秩父演習林では 2003 年度よりサポーター養成講座を開始しました。秩父演習林の教育研究や動植物、安全管理など計 10 講座、演習林の活動を支援するために必要な知識と技術を伝え、すべて受講した方をサポーターに認定します。サポーターの方々で組織する「秩父演習林サポーターしおじ*1の会」は現在会員 57 名となり、各種公開事業の支援、シカ柵見回りや歩道修理の森林管理作業などを行なっています。

千葉演習林では 2004 年度から「千葉演習林ボランティア」の募集を始めました。2005 年度に「千葉演習林ボランティア会 Abies*2」が結成され、一般公開等の支援、見学グループの案内、歩道の距離を示す杭の整備などを行なっており、現在 34 名の会員が活動しています。

2006 年には秩父演習林サポーターしおじの会の会員が千葉演習林を、2007 年には千葉演習林ボランティア会 Abies の会員が秩父演習林をお互いに訪問し、姉妹ボランティアとして交流しました。

まもなく、来年度の秩父演習林サポーター養成講座の受講生募集が始まります。また、千葉演習林ボランティア会 Abies では体験入会を随時受け付けています。興味のある方はぜひご参加下さい。



「自由見学日」で案内する秩父演習林サポーター



歩道杭のナンバーを打っている Abies 会員

*1 しおじ：秩父演習林の溪畔林に多い落葉広葉樹。家具材として珍重されています。
*2 Abies：千葉演習林の針葉樹を代表するモミの学名 *Abies firma* から名付けられました。

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧になるか、各演習林にお問い合わせ下さい。

8月(2008年)

- 24日 第23回「森林の市(もりのいち)」に出店(北海道)
- 31日 森林教室「世界に一つの樹木図鑑を作ろう」(田無)

9月

- 6日 大滝げんきプラザ共催事業 ネイチャーリーダー養成講座Ⅱ「荒川上流浅瀬釣り体験」(秩父)
- 18日 稲毛小学校校外学習(千葉)
- 18日 岡村行治技術専門職員が森林管理技術賞を受賞(北海道)
- 28日 公開講座「秩父演習林のきのこ」(秩父)

10月

- 7~10日 平成20年度技術職員研修(樹木医学関係)(田無)
- 9,23日 全学自由研究ゼミ「絶好調!名古屋・愛知の謎に迫る」(愛知)
- 11日 全学体験ゼミ「キノコに親しむ」①(田無)
- 16日 温室特別公開日(樹芸)
- 18,19,25日 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)
- 25~26日 全学体験ゼミ「キノコに親しむ」②(秩父)
- 26日 「子ども樹木博士」に挑戦しよう!!(田無)
- 26日 休日一般公開(田無)
- 31日 天津小学校 緑の教室(千葉)

11月

- 1日 全学体験ゼミ「キノコに親しむ」③(田無)
- 2,8,9日 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)
- 8日 犬山市との交流事業:公開講座「カシノナガキクイムシの被害について」(愛知)
- 8~9日 全学体験ゼミ「年輪の科学」(秩父)
- 15日 公開講座「犬山の森を知ろう!!」(愛知)
- 20日 温室特別公開日(樹芸)

12月

- 6日 公開講座「鳥の巣箱を作ろう!」(樹芸)
- 14日 影森祭(秩父)
- 18日 温室特別公開日(樹芸)

1月(2009年)

- 17日 冬の森を歩こう(千葉)

2月

- 14~17日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」(樹芸)
- 24~27日 全学体験ゼミ「森林の炭素固定機能を検証する」(千葉)
- 25~28日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」(樹芸)

3月

- 14日 公開講座「冬の森林観察」(秩父)

ハゼノキ

ウルシ科 ウルシ属

学名： *Rhus succedanea* L.

樹芸研究所

今では関東以西に広く分布していますが、日本の自生種ではなく、戦国時代末期に果実より木蠟もくろうろうを採取するために中国から持ち込まれたものが野生化し増えたものと言われています。木蠟の主成分はパルミチン酸とグリセリンのエステル（トリグリセリド）で、煙やすすの少ない良質な和ろうそくの原料とされます。また、心材の黄色い色素は、橙褐色の染色に使われ、昔から天皇の東帯装束ほうの袍（上着のこと）の黄櫨染きはせぞめに用いられてきました。常緑樹ばかりの伊豆にあって、鮮やかに紅葉するハゼノキは秋を感じさせてくれる数少ない樹木となっています。



名所名物案内

にしたっ び 西達布川の湧水

北海道演習林



西達布川上流域（標高 485m）にある湧水は、林道のすぐ横に位置することから北海道演習林訪問の際に訪れた方も多いのではないでしょうか。幅約 30m にわたって複数の湧き出し口があり、一年中きれいな水が湧き出しています。湧き出し口の下は岩盤はコケでおおわれており、とても美しい場所です。

大雨が降っても水が濁ることはほとんどなく、雨のない日も続いても目に見えて水量が減ることはありません。2004年7月の調査では、一秒間に約 300L もの水が流れ出ていることが分かりました。湧水の少し下流での西達布川の水量は約 700L/秒であり、この湧水に由来する水が西達布川の流れのおよそ 40%を占めていました。12月から4月は道路が雪に閉ざされるため訪れる人もありませんが、5月から11月に観測した水温は 6.3～8.5℃と水温の変化は小さいです。湧水由来の水が多く流れる西達布川とこの湧水地にはイズミコエグリトビケラ属など湧水を好むとされる水生昆虫も確認されています。

訪問の折には湧き水を持ち帰ってお茶を入れてみてはいかがでしょうか。ただし、エキノコックス*対策として生水は煮沸して飲むことをお願いします。

*キタキツネとネズミ類の寄生虫（多包条虫）で人間が感染すると肝臓障害を引き起こす。

科学の森ニュース (UT University Forests News) 第44号 (No.44)

発行日 平成20年12月10日

発行人 下村彰男

編集人 石橋整司

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2008@uf.a.u-tokyo.ac.jp